

令和 8 年度に実施した研究課題評価の結果について

1 中間評価について

(1) 評価の目的

これまでの進捗状況や目標達成可能性、研究を取り巻く状況の変化等の観点から、引き続き研究を続けることの適否を判断するための有用な情報を提供する。

(2) 評価対象

評価実施年度（R 8）に予算計上している継続研究課題。
ただし、研究開始年度及び終了年度にあるものは除く。

(3) 評価方法

① 内部評価委員会による評価を実施。

研究開始から奇数年度はヒアリング形式、偶数年度は書面形式により行う。

② 評価の観点及び評価項目

評価の観点	評価項目	評価内容
必要性	ニーズの状況変化 (a、b、c)	政策の転換や産業界・県民生活におけるニーズの変化等、研究を取り巻く状況の変化をみる。
有効性	研究開発効果 (a、b、c)	最終目標に到達した場合に、研究の成果が本県産業の振興や県民生活の向上に十分に貢献できるかをみる。
目標達成可能性	進捗状況及び目標達成阻害要因の状況 (a、b、c)	研究課題設定時の研究計画及び計画の修正記録等を基に評価時までの進捗状況を、技術水準、これまでの研究成果、他の研究主体の動向、研究資源、新たな課題の発生等の状況を基に目標達成を阻害する要因の状況をみる。
総合評価 (A、B、C、D)		次年度以降引き続き実施すべきか、また実施する場合の優先度を判断する。

(4) 総合評価の結果

評価結果	判定基準（項目評価の合計点）	課題数
A	9～8点	11課題
B	7～6点	9課題
C	5～4点	0課題
D	3点	0課題
合計		20課題

(5) 評価結果一覧(中間評価)

評価基準日 令和8年4月1日

No	研究機関名	課 題 名	事業年度	ヒアリング 実施	ニーズの 状況変化	効果	進捗状況・ 目標達成 阻害要因	総合評価	資料4
1	総合食品研究センター	「いぶりがっこ」の製造及び未利用素材の活用に関する研究	R7 ～ R9		b	b	b	B	1
2	総合食品研究センター	輸出向け発酵調味料の開発と高品質化	R7 ～ R9		a	a	b	A	7
3	総合食品研究センター	データ活用による新しい日本酒製造支援の基盤構築	R7 ～ R9		a	a	b	A	13
4	総合食品研究センター	フードテックによる食品副産物の利活用に関する研究	R7 ～ R9		a	b	b	B	19
5	農業試験場	秋田の米ぢからを強化する銘柄米の開発	R6 ～ R10	○	a	a	b	A	25
6	農業試験場	秋田の夏秋期の生産力を引き出す野菜栽培技術の開発	R6 ～ R10	○	a	b	b	B	31
7	農業試験場	秋田の花き生産を支える高温対策技術の確立	R7 ～ R11		a	a	b	A	37
8	農業試験場	重要病害に強い県オリジナル野菜品種の育成	R7 ～ R11		b	a	b	B	43
9	農業試験場	鶏ふん堆肥を利用した業務用米の安定多収生産技術の確立	R7 ～ R11		a	b	b	B	50
10	果樹試験場	園地更新や新規参入を促す新たな果樹栽培技術に適應する品種の選抜	R3 ～ R12		a	a	b	A	56
11	果樹試験場	雨よけ施設を活用した果樹の省力・高収益生産モデルの構築	R5 ～ R9		b	a	b	B	62
12	果樹試験場	地球温暖化に伴う環境変化に適應できる新たな果樹栽培に関する研究	R7 ～ R11		a	b	b	B	70
13	畜産試験場	異常気象に対応した粗飼料確保体系の確立	R7 ～ R12		a	a	b	A	77
14	畜産試験場	アニマルウェルフェアに配慮した比内地鶏の飼育技術の検討	R7 ～ R9		a	a	b	A	83
15	水産振興センター	ハタハタ等重要魚種の漁場予測技術の開発	R6 ～ R10	○	a	a	b	A	89
16	水産振興センター	内水面重要魚種の増殖・管理技術の開発	R6 ～ R10	○	a	b	b	B	95
17	水産振興センター	もうかる種苗量産技術開発に関する研究	R7 ～ R11		a	a	b	A	101
18	林業研究研修センター	再造林オプションとしての広葉樹林施業技術の刷新	R5 ～ R9		a	b	b	B	108
19	林業研究研修センター	シイタケ生産の経営基盤を強化する新たなキノコの導入と栽培システムの構築	R6 ～ R10	○	a	a	b	A	114
20	林業研究研修センター	炭素吸収量最大化を目指す高齢スギ人工林の管理手法の開発	R7 ～ R11		a	a	b	A	120

2 事後評価について

(1) 評価の目的

最終到達目標の達成度、研究成果の効果の観点から研究結果を評価し、次期研究計画の策定等に活用する。

(2) 評価対象

評価実施年度の前年度（R 7）に研究期間が終了した研究課題。

(3) 評価方法

① 内部評価委員会による評価を実施。

原則としてヒアリングにより実施。研究が、類似の研究課題に継続される場合は書面により実施。

② 評価の観点及び評価項目

評価の観点	評価項目	評価内容
目標達成	最終到達目標の達成度 (a、b、c)	研究計画で設定した最終到達目標の達成状況をみる。
有効性	研究成果の効果 (a、b、c)	研究成果の受益対象者の設定、成果の活用方法を踏まえ、研究成果の効果进行评估する。
総合評価 (A、B、C)		最終到達目標の達成度、研究成果の効果から研究課題を総合的に評価する。

(4) 総合評価の結果

評価結果	判定基準（項目評価の合計点）	課題数
A	6 点	4 課題
B	5 ～ 4 点	5 課題
C	3 ～ 2 点	0 課題
合計		9 課題

(5) 評価結果一覧(事後評価)

評価基準日 令和8年4月1日

No	研究機関名	課 題 名	事業年度	ヒアリング 実施	目 標 達成度	効果	総合 評価	資料5
1	総合食品研究センター	花卉の食品利用技術開発	R5 ～ R7	○	b	b	B	1
2	総合食品研究センター	秋田県産清酒の販路拡大に向けた海外市場向け 清酒に関する調査	R6 ～ R7	○	b	a	B	7
3	農業試験場	実需に応じた秋田米生産を支える病害虫防除技 術の確立	R3 ～ R7		a	a	A	13
4	農業試験場	環境への負荷を低減する園芸作物病害虫防除技 術の開発	R6 ～ R7		b	b	B	19
5	果樹試験場	果樹産地再生の基盤となる新品種の育成と選抜	H28 ～ R7		b	b	B	26
6	畜産試験場	稲わらの調製方法の違いが肥育牛に与える影響 の検討	R3 ～ R7	○	a	a	A	32
7	林業研究研修センター	低コスト造林を実現する秋田スギの開発	R3 ～ R7	○	a	a	A	38
8	産業技術センター	品質・設備モニタリング技術開発とスマート工場の 実現	R5 ～ R7	○	a	a	A	44
9	産業技術センター	金型の機能性向上に資する金属AM技術の開発	R5 ～ R7	○	b	b	B	50

令和8年度研究課題評価内部評価委員会委員名簿

機関名	評価委員会 開催日	評価委員の所属・職名	氏 名	代理出席
総合 食品研究 センター	5月20日(水)	農業試験場 企画経営室長 県産品振興課 課長 総合食品研究センター 所長 総合食品研究センター 総務企画室長 総合食品研究センター 食品加工研究所長 総合食品研究センター 醸造試験場長	本庄 求 熊谷 僚子 小松 修 高橋 勝則 高橋 徹 戸松 さやか	
健康環境 センター	※令和8年度は評価対象となる研究課題がないことから、内部評価委員会の設置及び開催実績はなし。			
農業 試験場	5月25日(月)	農林政策課 スマート農業推進監 水田総合利用課 課長 園芸振興課 課長 農業試験場 場長 農業試験場企画経営室 室長 総合食品研究センター醸造試験場	高橋 功 坂下 豪 石澤 浩樹 川本 朋彦 本庄 求 戸松 さやか	農林政策課長代理
果樹 試験場	5月25日(月) (書面審査のみ)	農林政策課・課長 園芸振興課・課長 果樹試験場・場長 果樹試験場総務企画室・室長	小野寺 平崇 石澤 浩樹 中尾 学 舟山 健	
畜産 試験場	5月25日(月)	農林政策課 課長 畜産振興課 課長 畜産試験場 場長 畜産試験場 総務企画室長	小野寺 平崇 藤田 歩 小林 満 石井 清一	
水産振興 センター	5月25日(月)	農林政策課 課長 水産漁港課 課長 水産振興センター 所長 水産振興センター 総務企画室長	小野寺 平崇 三浦 信昭 中林 信康 斎藤 和敬	
林業 研究研修 センター	5月25日(月)	農林政策課 政策監 園芸振興課 課長 林業木材産業課 参事(兼)課長 森林資源造成課 課長 林業研究研修センター 所長	眞柄 幸治 石澤 浩樹 永井 秀樹 虻川 寛明 眞崎 博之	農林政策課長代理
産業技術 センター	5月15日(金)	産業技術センター 所長 産業技術センター企画事業部 部長 産業技術センター先進プロセス開発部 部長 産業技術センター素形材開発部 部長 産業技術センター先端機能素子開発部 部長 新産業創造課 課長	杉山 重彰 経徳 敏明 内田 富士夫 熊谷 健 佐々木 信也 金湖 信之	